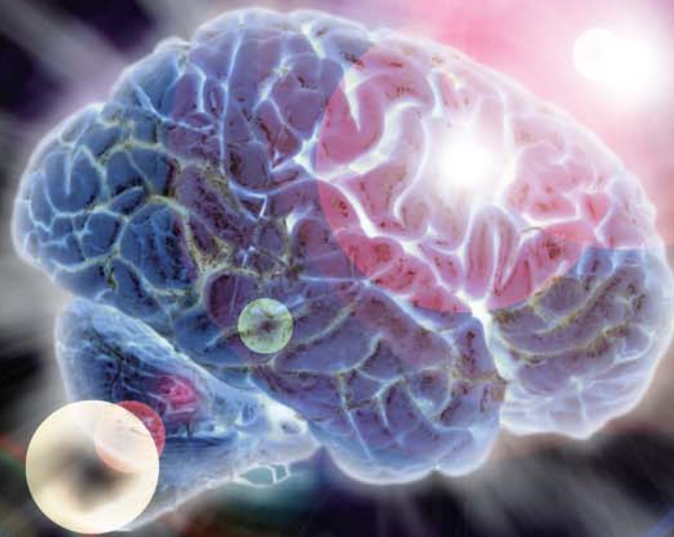


シンポジウム

「脳画像と社会的意思決定」

Brain imaging
and social decision making



脳画像が臨床・研究に应用されて久しいが、近年ではその社会的意義も問われるようになってきている。中でも一般市民が脳画像を示された場合には、その専門的知識の少なさからその後の意思決定に多大な影響を受けることが推測される。これは司法の場面における脳画像の利用や、健康増進・老化予防の目的などわれわれの身近で起こる可能性がある。このような問題を本シンポジウムでは、主に心理学や科学哲学の観点から討議する。さらに健常被験者を対象とした、脳画像と責任帰属の心理実験の結果の一部についても述べる予定である。

オーガナイザー：飯高哲也（名古屋大学大学院医学系研究科）
シンポジスト：戸田山和久（名古屋大学大学院情報科学研究科）

「科学哲学の立場から」

唐沢穰（名古屋大学 大学院環境学研究科）

「社会心理学の立場から」

八田武志（関西福祉科学大学）

「神経倫理学の立場から」

飯高哲也（名古屋大学大学院医学系研究科）

「神経科学の立場から」

第2回 社会感情神経科学研究会

日時：9月15日（火） 16:00～18:30

場所：名古屋国際会議場 3階会議室 232-233 地下鉄「西高蔵」「日比野」駅から徒歩5分

本研究会は第32回日本神経科学会サテライトシンポジウムとして開催予定です。

詳細は学会サイトへ <http://www.congre.co.jp/neurosci2009/japanese/index.html>

事前登録不要 参加費無料（予定人数：約100名）

代表世話人：飯高哲也（名古屋大学 大学院医学系研究科 精神生物学）

連絡先：TEL(052)744-2282 / メール iidaka@med.nagoya-u.ac.jp

WEB：<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/seisin/J-SANS/TOP.html>

